

現代日本語における家族から呼ばれるときの呼称

アザム・セペフリバディ

要旨

本稿では、家族の会話の中での人称表現の使い分けに注目しつつ、世代差や性差によって呼称（呼ばれ方）の使い分けがどう変化するか考察した。その結果、①目上から目下に対しては名前と呼ぶ、②目下から目上に対しては人称代名詞と呼ぶ、③子どもは家族の最年少者の立場から親族呼称を使って呼ばれるなど、鈴木孝夫（1973）の説が概ね裏付けられた。一方、①目上からの目下への呼称は多様化している、②兄弟姉妹間の親族呼称の使用が減少している、③親族間の呼称は呼ぶ側と呼ばれる側の双方の性差の影響を受ける、④呼ばれる側の年齢が上がるほど人称代名詞や「ちゃん／くん」付けが少ないなど、鈴木孝夫（1973）を含め、これまであまり指摘されてこなかった傾向も観察され、背後に核家族化や少子化の影響が見てとれる。

キーワード：親族呼称、人称代名詞、社会言語学、世代差、性差

1. はじめに

自然言語のメカニズムを理解していくためには、狭い意味での文法的な知識だけではなく、話し手、聞き手の心理的な態度や社会的な対人関係を考慮した社会言語学的研究が必要になる。とくに、ある地域に暮らす民族を理解するためには、その共同体固有の生活様式や行動様式である文化を理解することが重要である。本稿は人称表現、すなわち呼称の実態を明らかにすることを目的とするが、周囲の人に呼びかけ、また呼びかけられる呼称は、その民族の文化の中核をなす人間関係に深く根ざすものである。

呼称には大別すると二つの機能がある。一つは、発話された文中で、自己と他者を区別して指示する働きである。もう一つは、相互に呼び合う場面において、文頭の呼格的位置で、相手を引き込むために注意を喚起する働きである（谷泰 1998：pp.105-121）。呼称は、コミュニケーションの過程で話し手と聞き手の間に頻繁に登場するものであり、呼称には、当該言語社会の対人意識や行動様式が反映されている。

日本語の場合、自分及び相手を指したり、呼びかけたりする際、自分と相手との社会的関係、性別、場面などに応じて、人称代名詞、職業名、役職名、親族名称、敬称、役割名、個人名などの多様な選択肢の中から呼称を選択することができる。また、日本語の呼称は、「人間関係の上下」が呼称選択において大きな意味を持っている。そのため、人称代名詞は種類が豊富で、相手と場面によって使い分けられている点が指摘されてきた（田中春美・田中幸子（1998：pp.10-12）、鈴木孝夫（1982：pp.121-126））。

呼称は、待遇表現とも深い関わりがある。井上史雄（1999：pp.39-46）によれば、昔は初対面の人と話すときなどには、相手との上下関係や年齢を手がかりにしてどちらが敬語

を使うかを決めた。しかし、現在では、固定した身分・地位・年齢などに関係なく、最初はさしさわりのない敬語を使い、のちにはお互いの親疎によって使い分けるという意識が強い。つまり、敬語の使い方が、目上・目下という基準から親疎という基準に変化する傾向がうかがえる。基準がタテからヨコへ変化するといってもよいと述べられている。

こうした社会的な変化を考慮しつつ、本稿では、従来、あまり研究がなされていなかった会話の中での呼称の使い分けに注目し、世代差や性差によって呼称の使い分けがどのように変化するかを考察する。その際、特に、呼ぶ側と呼ばれる側の性差、呼ばれる側の成長段階が呼称表現に与える影響に重点を当てて考察を進めたい。

本稿では、東京在住の日本人を対象に、小学生から社会人までを、世代別に、家庭内での親族呼称に着目し、家庭生活の中での呼称表現、特に呼ばれ方を研究対象にすることとした。本研究のアプローチ方法である社会言語学は、言語体系と言語使用の接点の問題に密接に関わる分野である。従って、本研究は、言語体系と言語使用の相互関係を明らかにしていくための基礎研究の一部として役に立つと考えられる。

2. 調査方法

2-1 アンケートによる調査

本研究を実施するに当たっては、日本語を母語とする東京在住の日本人 250 人を対象にアンケート調査を行い、その結果を集計し、考察した。

表1 調査対象の性別および人数

性	小学5年生	中学校2年生	高校2年生	大学2年生	社会人2年目	合計
女性	25名	25名	25名	25名	25名	125名
男性	25名	25名	25名	25名	25名	125名
合計	50名	50名	50名	50名	50名	250名

2-2 質問項目

本調査では、日本語の親族間の上下による呼称の使い分けを検討するため、話し手を基準とし、同世代、異世代において目上と目下の関係にある親族を設定し、それぞれの親族に対し、何と呼ばれているか、調査対象者に尋ねた。回答は自由記入式であった。その目的は、できるだけ多様な呼称バリエーションを収集して類型を作り、その類型から日本語における呼称の使い分け傾向及びその特徴を探るためである。なお、調査票では、それぞれの親族と面と向かって対話するという状況だけを設定した。

3. 呼ばれ方

3-1 父母から子どもへの最初の呼びかけ

この報告では、呼び方の分類を、表2のように表した。

表 2 呼び方の分類

表記	親族呼称	名前	名前+さん/ちゃん	あだ名+ちゃん
例	お姉ちゃん	咲子	咲子さん/咲子ちゃん	さっちゃん/さきちゃん
例	姉ちゃん	花子	花子さん/花子ちゃん	デブちゃん/チビちゃん

あだ名とは「本名以外に他人からつけられる呼び名。愛称あるいは悪意や中傷の意味をもつもの等多種。ネックネーム。」(『日本語大辞典』講談社)である。日本語で使用する場合、一つは、個人名の一部を略したり変化させたりした呼び名であり、もうひとつは、個人名とは関係ない、その人の特徴を捉えて付けた呼び名である。

前者は、例えば、「さっちゃん」「さきちゃん」が挙げられる。基本的には「名前の最初の2拍+ちゃん」形となることが多い。上の例は「さっ」「さき」から形成されている。

後者は、実名とは関係なく、体の特徴から「デブちゃん」「チビちゃん」と呼ぶような場合である。その人の特徴から付けられた愛称で、ときには、からかいの意味が含まれる。個人的な談話では後者の例も見聞きしたが、本調査では、「名前の最初の2拍+ちゃん/くん」などとする前者のケースのみが見られた。鈴木孝夫(1973: pp.171)が家族内での上下関係において親族呼称が重要であると述べているが、それに加え親疎を示す呼び方として「名前」の他に「あだ名」「あだ名+ちゃん」などという分類も導入した。

表 3 父母から子どもへの最初の呼びかけ

項目 \ レベル	父から子ども												母から子ども											
	小		中		高		大		社		合計		小		中		高		大		社		合計	
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
お兄ちゃん	2	-	2	-	1	-	-	-	-	-	5	-	2	-	2	-	2	-	-	-	-	-	6	-
兄ちゃん	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-
お姉ちゃん	-	3	-	2	-	2	-	-	-	-	7	-	-	-	2	-	1	-	1	-	-	-	4	-
姉ちゃん	-	1	-	1	-	-	-	2	-	-	4	-	2	-	1	-	2	-	-	-	-	-	5	-
名前	4	3	4	3	6	4	8	6	10	7	32	23	2	2	2	2	3	3	7	6	11	8	25	21
+ちゃん	-	5	-	4	-	2	-	2	-	2	0	15	4	5	4	5	2	3	2	3	2	2	14	18
あだ名	9	6	12	9	15	12	13	13	12	14	61	54	9	5	9	7	13	10	9	10	7	11	47	43
+くん	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2	-	2	-	2	-	1	-	7	-
+ちゃん	5	5	3	5	-	2	-	-	-	-	8	12	8	10	5	7	3	4	3	3	2	3	21	27
(いない)	2	2	2	1	2	3	4	2	3	2	13	10	-	1	1	1	-	2	2	2	2	1	5	7
合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	125	125	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	125	125

表3の集計結果を分析すると、父親から子どもへの呼びかけ方は、小学生から中学、高校、大学、社会人では、男子では「あだ名」(125名中61名)、「名前」(32名)で呼ぶことが多く、「名前/あだ名+ちゃん」(8名)、「あだ名+くん」(3名)で呼ぶことは少ない。しかし、小学生、中学生の女子では「あだ名+ちゃん」(小学生25名中5名、中学生5名)、

「名前+ちゃん」(小学生 25 名中 5 名、中学生では 25 名中 4 名) で呼ぶことが多く、高校生では「あだ名/名前+ちゃん」(25 名中 2 名) の呼ばれ方が少い。母親から子どもへの呼びかけ方は、小学生・中学生男女ともに「あだ名+ちゃん」(小学生では男子 25 名中 8 名、女子 25 名中 10 名)、(中学生では男子 5 名、女子 7 名)、「名前+ちゃん」(小学生では男子 4 名、女子 5 名)、(中学生では男子 4 名、女子 5 名) で呼ぶことが父親より若干多いが、高校生から社会人では少ない。両親が子どもに対して、男女共に小学生から中学、高校、大学、社会人では、親族呼称である「お姉ちゃん」「姉ちゃん」「お兄ちゃん」「兄ちゃん」などのような表現で呼んでいる事例も認められたが、最大でも「お姉ちゃん」の 7 名であり、多くはなかった。この事例は、鈴木孝夫の説「日本の家族内で、目上の者が目下の者に直接話しかけるときは、家族の最年少者の立場から、その相手を見た親族名称を使って呼びかけることができる」(鈴木孝夫：pp.147-175) ことを裏付けるものである。

日本語における、両親による子どもへの呼称の使い分けの結果をまとめると、父親と母親によって呼称表現が異なることが判明した。「母親」による子どもへの呼称は、小学生から中学、高校、大学生では、はっきりと違いが見られるのに対し、「父親」による子どもへの呼称は小学生から中学、高校、大学、社会人でも、あまり違いが見られない。

また、呼ぶ対象の性差によってもまた呼称表現に差異が現れている。即ち、父親は女子に対して「ちゃん」づけで呼ぶ傾向が若干あるが、男子に対しては「あだ名/名前」で呼ぶ傾向がある。母親は子どもに対して男女問わず「ちゃん」付けで呼ぶことが多い。さらに両親共に小学生から中学、高校、大学の順に、「ちゃん」付けの呼称表現は徐々に少なくなる傾向にある。即ち、呼ぶ側の性差と呼ばれる側の性差、更に成長段階が呼称表現に影響を与えていると推定される。

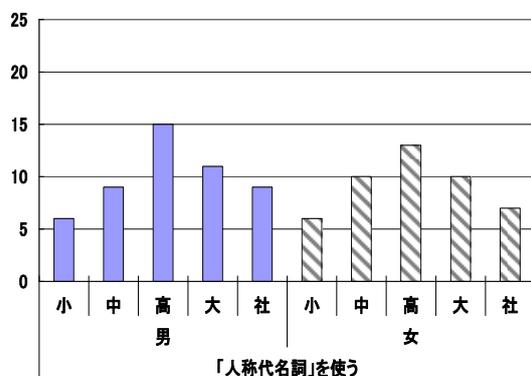
3-2 父母から子どもへの会話の途中での呼びかけ

次ページの表 4 に見られる通り、小学生から社会人に至るまで、両親から子どもへの会話の中での呼称は、「名前/あだ名」(125 名中男子 35 名、125 名中女子 34 名)、「名前/あだ名+ちゃん」(男子 6 名、女子 12 名) 付けが見られる。しかし、人称代名詞(男子 41 名、女子 44 名)の使用例も見られる。父親から男子に対して「お前」(35 名)という人称代名詞で呼ぶことが多く、わずかながら「あんた」(4 名)という人称代名詞の使用も見られる。他方、女子に対しては「あなた」(11 名)、「あんた」(25 名)という人称代名詞がよく見られ、「お前」(8 名)という人称代名詞の使用例は少ない。母親からの呼称は男女ともに「あなた」(男子 15 名、女子 20 名)、「あんた」(男子 25 名、女子 25 名)という人称代名詞を使うことが多く、男子に対しては「お前」(10 名)を使う人もいるが少ない。次ページの資料図 1、2 では、父母から子どもへの会話の中での呼称は年齢によって異なることが判明した。両親とも小学生から中学、高校生では人称代名詞の使用が多いが、大学生からあとは、人称代名詞の使用が少ない。

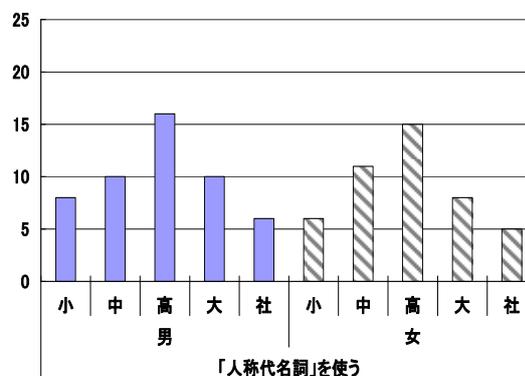
表4 父母から子どもへの会話の途中で呼びかけ

レベル 項目	父から子ども												母から子ども											
	小		中		高		大		社		合計	小		中		高		大		社		合計		
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
お兄ちゃん	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	2	-	1	-	-	-	-	-	5	-
兄ちゃん	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
お姉ちゃん	-	2	-	2	-	1	-	-	-	-	-	5	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2
姉ちゃん	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
名前	3	3	4	3	4	2	5	4	9	8	25	20	1	2	2	2	3	2	5	5	8	7	19	18
+ちゃん	-	-	-	2	-	2	-	1	-	2	0	7	3	3	2	2	1	2	-	2	-	2	6	11
あだ名	8	9	6	6	7	4	7	8	7	7	35	34	5	7	5	4	3	2	5	6	7	8	25	27
+くん	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
+ちゃん	3	3	2	2	-	-	-	-	-	-	5	5	6	4	3	3	1	2	3	2	2	2	15	13
あなた	-	-	-	1	-	2	-	5	-	3	0	11	1	1	3	5	3	7	4	4	4	3	15	20
あんた	1	4	1	6	2	7	-	5	-	3	4	25	4	5	6	6	9	8	4	4	2	2	25	25
おい	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
お前	5	2	6	2	9	4	9	-	6	-	35	8	3	-	1	-	4	-	2	-	-	-	10	-
(いない)	2	2	2	1	2	3	4	2	3	2	13	10	-	1	1	1	-	2	2	2	2	1	5	7
合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	125	125	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	125	125

資料図1 父から子どもへの会話の途中で呼びかけ



資料図2 母から子どもへの会話の途中で呼びかけ



会話の中での呼称表現も、呼ばれ方のケースと同様に、呼ぶ側と呼ばれる側の性差という要因が働いていることが考えられる。Brown & Levinson (1987: pp.375-385) によると、インド・ヨーロッパ諸族の言語では、会話の中での呼称は、性差及び上下関係なく、人称代名詞を多用する。即ち、聞き手と話し手はお互いに年齢や社会的地位による権力関係が存在する場合、複数二人称代名詞いわゆる「V」、を使い、仲間意識を示したい場合には、単数二人称代名詞「T」を用いる。いずれにしてもお互いに人称代名詞を使う。一方、日本語では、年上の人に対して人称代名詞を使わず、「名前」「あだ名」などを使うという特徴が、本調査の結果、うきぼりになった。

3-3 祖父母から子どもへの最初の呼びかけ

表5 祖父母から子どもへの最初の呼びかけ

レベル 項目	祖父から子ども												祖母から子ども											
	小		中		高		大		社		合計		小		中		高		大		社		合計	
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
名前	3	4	3	4	3	5	8	7	9	9	26	29	2	4	3	5	4	5	8	8	12	9	29	31
+くん	2	-	1	-	2	-	1	-	-	-	6	-	1	-	1	-	1	-	1	-	-	-	4	-
+ちゃん	2	5	1	4	-	2	-	2	-	-	3	13	3	5	2	4	1	3	-	2	-	-	6	14
あだ名	7	6	10	7	13	11	9	9	11	9	50	42	6	5	8	6	11	10	9	9	8	9	42	39
+くん	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3	-
+ちゃん	7	8	6	6	3	4	2	3	-	2	18	23	8	8	7	7	4	4	2	3	-	2	21	24
(いない)	3	2	3	4	4	3	5	4	5	5	20	18	3	3	3	3	4	3	5	3	5	5	20	17
合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	125	125	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	125	125

表5の通り、祖父母から孫に対しての呼びかけ方は、小学生から中学、高校、大学、社会人では、男女共に、父母からの呼びかけ方と同じように「あだ名」（祖父から125名中男子50名、125名中女子42名）、（祖母から男子42名、女子39名）と「名前」（祖父から男子125名中26名、女子125名中29名）（祖母から男子29名、女子31名）で呼ぶケースが多い。それに次いで、男女共に「あだ名+ちゃん」付け（祖父から男子18名、女子23名）、（祖母から男子21名、女子24名）と「名前+ちゃん」（祖父から男子3名、女子13名）（祖母から男子6名、女子14名）で呼ぶ例が多く見られた。しかし、子どもに対しての呼び方は、母から「ちゃん」付けで呼ぶことが父のケースより多かったが、祖父母の場合は、小学生から中学、高校、大学生、社会人では「ちゃん」付けで呼ぶ割合がほぼ同じぐらいである。父母から子どもに対する呼称表現においては、呼ぶ側と呼ばれる側の性差そして成長段階が影響していることが明らかとなった。しかし、祖父母から孫に対する呼称表現ではそうした違いは認められなかった。

3-4 祖父母から孫への会話の途中での呼びかけ方

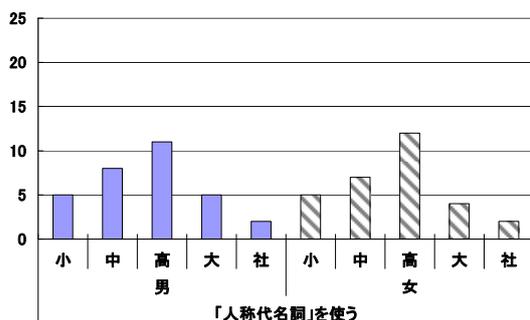
次ページの表6の通り、会話の中で小学生から中学、高校、大学生、社会人では、祖父母から孫への呼称は、「名前」（祖父から男子125名中23名、女子125名中21名）、（祖母から男子125名中18名、女子125名中23名）、「あだ名」（祖父から男子31名、女子25）、（祖母から男子27名、女子20名）、「名前+ちゃん」（祖父から男子3名、女子13名）、（祖母から男子3名、女子15名）、「あだ名+ちゃん」（祖父から男子15名、女子13名）、（祖母から男子17名、女子20名）で呼ぶ人もいるが、人称代名詞を使う人もいる。しかし、父母の会話表現に比べると少ない。祖父から男子に対して「お前」（29名）という人称代名詞が使われるが、女子に対しては「あなた」（10名）、「あんた」（14名）という人称代名詞がよく見られ、「お前」という人称代名詞の使用例は非常に少ない。

祖母から会話の中での呼称は、祖父と同様に小学生から中学、高校、大学、社会人では「あだ名／名前」、「あだ名／名前＋ちゃん」で呼ぶことが多い。人称代名詞の使用例も見られる。女子には「あなた」(9名)、「あんた」(21名)、男子には「お前」(28名)という人称代名詞が用いられ、「あなた」「あんた」という人称代名詞の使用例は少ない。資料図3、4からは、祖父母から孫への会話の中での呼称は年齢によって変わってくるのが分かった。祖父母とも小学生、中学、高校生では人称代名詞の使用が多いが、大学生以降は人称代名詞の使用が少ない。

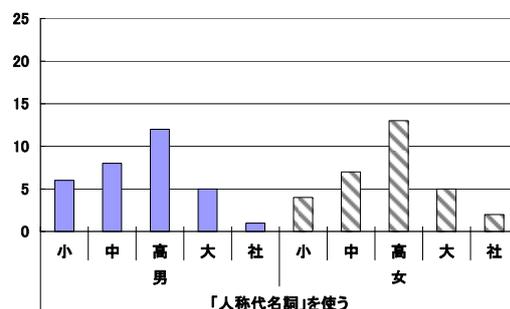
表6 祖父母からの会話の途中での呼びかけ

レベル 項目	祖父から孫												祖母から孫											
	小		中		高		大		社		合計	小		中		高		大		社		合計		
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
名前	3	2	2	3	3	3	6	6	9	7	23	21	2	3	2	3	2	2	4	6	8	9	18	23
+くん	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	3	-
+ちゃん	2	5	1	2	-	2	-	2	-	2	3	13	2	5	-	3	1	2	-	2	-	3	3	15
あだ名	4	5	7	4	5	3	7	6	8	7	31	25	5	4	4	4	4	3	7	5	7	4	27	20
+くん	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
+ちゃん	6	6	4	3	2	2	2	2	1	-	15	13	5	6	5	5	2	2	3	4	2	3	17	20
あなた	-	-	-	1	-	3	-	4	-	2	0	10	2	-	2	1	-	4	-	2	2	2	6	9
あんた	-	2	-	5	1	6	1	1	-	-	2	14	2	4	1	5	-	9	1	3	-	-	4	21
お前	5	3	8	3	10	3	4	-	2	-	29	11	4	-	7	-	12	-	4	-	1	-	28	-
(いない)	3	2	3	4	4	3	5	4	5	5	20	18	3	3	3	3	4	3	5	3	5	5	20	17
合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	125	125	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	125	125

資料図3 祖父からの会話の途中での呼びかけ



資料図4 祖母からの会話の途中での呼びかけ



2010年10月から2011年2月に同じ対象者に対する追加調査で、祖父母から孫への呼びかけ方に家族形態が影響していることが判明した。250名の調査対象者にインタビューをしたところ、祖父母と同居している人は57名であった(女性:29名、男性:28名)。そして、57名のうち、46名は祖父母からの呼びかけは「ちゃん／くん」付けで、会話の

中では人称代名詞で呼ばれている。こうした傾向は、祖父母との親密な関係を反映しているものと考えられる。一方、祖父母と別居している対象者は、男女ともに祖父母から「名前／あだ名」で呼ばれることが多いことがわかった。このことは、核家族化が呼びかけ方に影響することを示している。

村田恵子 (1986)、関戸啓子 (2001) は、産業化の進展に伴う核家族化によって、多くの子どもたちは、祖父母と接する機会が少なくなったと指摘する。家族間の呼称表現の変化は、家族形態の変容、すなわち核家族化に深く影響しているものと考えられる。

3-5 兄・姉からの最初の呼びかけ

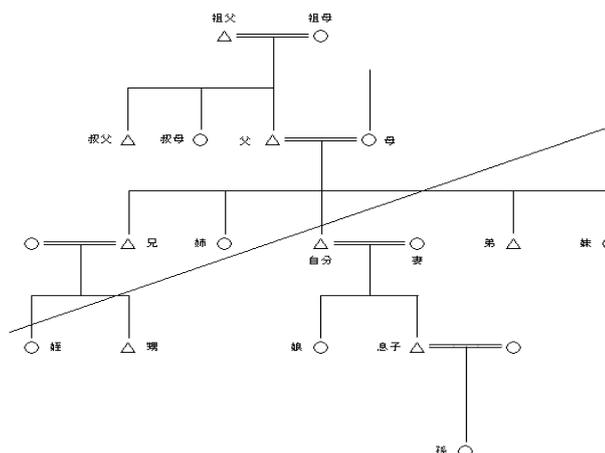
表7では、兄姉からの呼称については、日本の少子化傾向の影響で、「兄・姉がない」という回答が多い。小学生から中学、高校、大学、社会人では「あだ名」(兄から男子125名中45名、女子125名中49名)、(姉から男子125名中39名、女子125名中44名)で呼ばれる例が一般的である。このことは鈴木孝夫の一つの説である「自分の弟に『おい弟』と呼びかけることができない、また、話者は分割線の下に位する者は、名前で呼ぶことができる」(鈴木孝夫 (1973 : pp.171)、第1図参照) ことを裏付けるものである。

表7 兄姉からの最初の呼びかけ

レベル 項目	兄から						姉から																	
	小		中		高		大		社		合計		小		中		高		大		社		合計	
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
名前	4	3	5	3	5	5	5	4	5	6	24	21	3	3	4	3	5	4	5	4	6	5	23	19
+くん	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-
あだ名	12	11	10	9	8	10	8	12	7	7	45	49	8	7	7	9	8	12	10	8	6	8	39	44
+ちゃん	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	0	4	2	3	-	2	-	-	-	-	-	-	2	5
(いない)	9	9	10	11	12	10	12	9	13	12	56	51	11	12	13	11	12	9	10	13	13	12	59	57
合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	125	125	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	125	125

また、兄姉から弟妹に対する呼称表現においては、呼ぶ側と呼ばれる側の性差そして成長段階が影響しないことが明らかとなった。

第1図 親族の上下関係 (鈴木孝夫 1973、P171) より



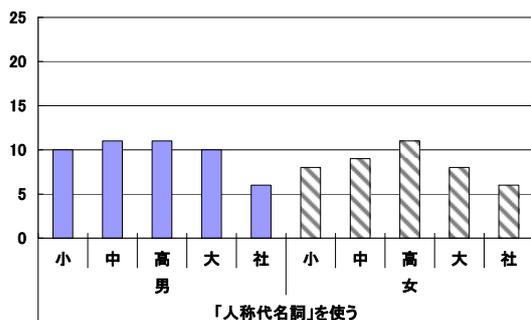
3-6 兄姉からの会話の途中で呼びかけ

表8では、会話のなかにおける兄姉からの呼称は、小学生から中学、高校、大学、社会人では男女共に「あだ名」(兄から男子125名中16名、女子125名中21名)、(姉から男子125名中16名、女子125名中13名)で呼ばれる例も人称代名詞で呼ばれる例も見られる。会話の中での兄姉からの呼称は、女子では、小学生から中学、高校、大学生では兄から「あなた」(5名)、「あんた」(17名)、「お前」(15名)が使われるが、社会人では「お前」という人称代名詞は使われない。また、小学生から中学、高校、大学生まで、会話の中で人称代名詞を使う人が社会人より多い。会話の中での兄姉からの呼称は男子に対しては、兄から小学生から中学、高校、大学、社会人まで「お前」(44名)が使われるが、姉から女子に対して小学生、中学、高校、大学生、社会人まで「あなた」(19名)、「あんた」(27名)、男子に対して、小学生、中学、高校、大学生、社会人まで「あなた」(5名)、「あんた」(20名)、小学生、中学、高校、大学生では「お前」(18名)が使われるが、社会人では「お前」という人称代名詞は使わなくなるようだ。

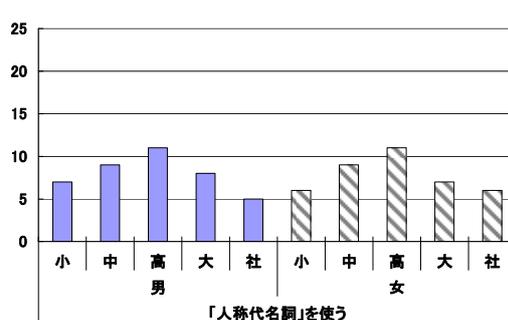
表8 兄・姉からの会話の途中で呼びかけ

項目	レベル		兄からの呼びかけ										姉からの呼びかけ													
			小		中		高		大		社		合計		小		中		高		大		社		合計	
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
名前	1	-	1	-	-	-	1	-	2	2	5	2	-	-	-	-	-	-	2	1	3	3	5	4		
あだ名	5	5	3	4	1	3	3	5	4	4	16	21	5	4	3	2	2	2	3	2	3	3	16	13		
+ちゃん	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	0	5	2	3	-	1	-	1	-	-	-	-	2	5		
あなた	-	-	-	-	-	2	-	3	-	2	0	7	-	2	-	4	-	6	2	4	3	3	5	19		
あんた	-	3	-	5	-	3	-	4	-	4	0	21	4	4	4	7	4	7	5	5	3	4	20	27		
お前	8	5	10	4	11	5	9	1	6	-	44	15	3	-	5	-	7	-	3	-	-	-	18	-		
おめえ	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	3	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
てめえ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
いない	9	9	10	10	12	12	12	12	13	13	56	56	11	12	13	11	12	9	10	13	13	12	59	57		
合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	125	125	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	125	125		

資料図5 兄からの会話の途中で呼びかけ



資料図6 姉からの会話の途中で呼びかけ



資料図 5、6 のように、兄姉から弟妹に対する呼称表現においては、人称代名詞を使う人が多いが、目下なのに年齢が進むと共に人称代名詞の使い方も減ってくる。また、呼ぶ側と呼ばれる側の性差そして成長段階が影響していることが明らかとなった。

兄姉からの会話の中での呼称は、鈴木孝夫の説と同様に「目下のものに対して人称代名詞を使うことができる」という説を裏付ける結果になったが、家族の環境により目下に対しても人称代名詞を使わず、「あだ名」付けが多く、「名前」が若干見られ、「あだ名+ちゃん」が妹からの呼称としてよく見られる。

3-7 弟妹からの最初の呼びかけ

表 9 弟妹からの最初の呼びかけ

レベル 項目	弟からの呼びかけ												妹からの呼びかけ											
	小		中		高		大		社		合計	小		中		高		大		社		合計		
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
お兄ちゃん	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	1	-	1	-	1	-	-	-	5	-
兄ちゃん	2	-	2	-	2	-	-	-	-	-	6	-	2	-	2	-	1	-	-	-	-	-	5	-
ニイ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兄貴	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
お姉ちゃん	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	2	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	4
姉ちゃん	-	2	-	1	-	1	-	1	-	-	5	-	1	-	1	-	2	-	1	-	-	-	5	-
ねっちゃん	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
名前	2	1	2	2	2	2	4	4	4	4	14	13	1	1	1	1	1	1	2	2	4	3	8	8
+さん	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2	3	2	-	-	-	-	-	-	-	2	1	2	1	1
+ちゃん	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	2	1	2	1	1	1	1	-	-	-	3	4	4
あだ名	2	3	4	5	7	6	6	5	5	4	24	23	3	3	4	4	5	6	5	6	6	5	23	24
+くん	2	-	1	-	1	-	-	-	-	-	4	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	3	-
+ちゃん	2	3	1	2	-	-	-	-	-	-	3	5	2	3	2	2	2	1	1	1	1	1	8	8
いない	13	14	14	12	13	16	15	14	13	15	68	71	14	12	13	15	13	14	16	15	12	15	68	71
合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	125	125	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	125	125

資料図 7 弟からの最初の呼びかけ



資料図 8 妹からの最初の呼びかけ



前ページの表 9 と資料図 7、8 の通り、兄・姉に対しては全ての年代で、非親族呼称で呼びかけるケースが多い。これは、目上の人に対しては名前呼びかけができないという鈴木孝夫（1973）の原則とは異なる結果である。日本語のこのような現象については、家族関係などの主体的条件を考えると、岡本（2000：pp.48-60）は、少子化にともない、大きな年齢差のある兄弟が少なくなり、兄弟が上下関係的に意識されなくなったこと、（荻野 1998：pp.160-167）子から親、孫から祖父母といった直系の上位者よりは、弟から兄というような傍系の上位者に関して制約が弱いことがその原因であることなどが推測される。それに付け加え、非親族呼称の呼び方のバリエーションが増えているという点も指摘したい。「あだ名＋くん」、「名前＋さん」、「名前＋くん」等である。150 人の高校生、大学生、社会人の調査対象者の中で、兄姉がいる 59 名のうち、「自分の兄姉をどう呼んでいるかを聞いた結果、そのうち、高校生（15 名）、大学生（16 名）、社会人（14 名）、は「名前、あだ名」「名前、あだ名＋ちゃん／くん」と答えた。理由を尋ねたところ「成人してからは何となく親族呼称で呼びかけるのが恥ずかしくなった。」、11 名は「アニメと携帯電話、インターネットの影響」という回答を得た。そして 100 名の小学生・中学生のうち兄姉がいる 39 人、「自分の兄姉をどう呼んでいるかを聞いた結果、そのうち、小学生（16 名）、中学生（18）は「名前、あだ名」「名前、あだ名＋ちゃん／くん」と答えた。理由を尋ねたところ「自分の周りの友人はあまり親族呼称で呼びかけない」、「アニメやオタクのコミュニティ（『2ちゃんねる』）の影響」、「年齢が近いので、より親しみをこめた親族呼称を使わず、「～くん」「～ちゃん」をつけたり、「あだ名」で呼ぶという回答もあった。

上記のインタビューにおける、「アニメと携帯電話、インターネットの影響」と「アニメやオタクのコミュニティ（『2ちゃんねる』）の影響」のような新しい技術の出現、即ち、携帯電話、PC、アニメなどが呼称表現に深く影響していることがうかがえる。家族関係以外の社会的条件の変化も呼称表現に与える影響が大きいと考えられる。

3-8 弟妹からの会話の途中での呼びかけ

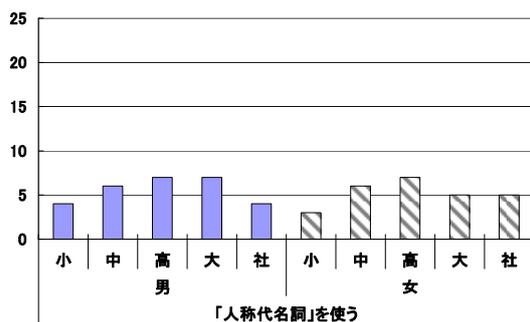
表 10 と資料図 9、10 の通り、弟妹からの会話の中での呼称は、小学生から中学、高校、大学、社会人では男女共に親族呼称が少ないが、「あだ名」（弟から男子 125 名中 9 名、女子 125 名中 13 名）、（妹から男子 125 名中 12 名、女子 125 名中 11 名）、「名前」（弟から男子 10 名、女子 5 名）、（妹から男子 7 名、女子 5 名）、で呼ばれる例があり、人称代名詞で呼ばれる例も見られる。会話の中での弟からの呼称は姉に対して小学生から中学、高校、大学生、社会人「あなた」（4 名）、「あんた」（12 名）、小学生、中学、高校生では「お前」（11 名）が使われるが、社会人では「あなた」「あんた」で呼ばれる。弟から兄に対しては驚くべきことに、「お前」（28 名）という表現が多く使われている。また、小学生から中学、高校、大学生においては会話の中で人称代名詞を使う人が社会人より多い。会話の中での妹からの呼称は姉に対して小学生から中学、高校、大学生、社会人では「あなた」（11

名)、「あんた」(16名)が使われるが、弟から姉に対しては「お前」(11名)、「あなた」(4名)「あんた」(12名)という表現が使われる。また、小学生から中学、高校、大学生においては会話の中で人称代名詞を使う人が社会人より多い。

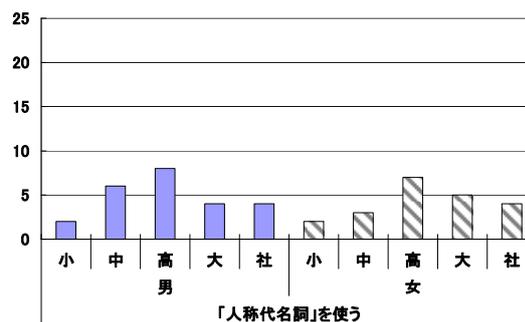
表 10 弟妹からの会話の途中での呼びかけ

レベル 項目	弟からの呼びかけ						妹からの呼びかけ																	
	小		中		高		大		社		合計		小		中		高		大		社		合計	
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
お兄ちゃん	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	3	-
兄ちゃん	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	3	-	2	-	2	-	-	-	-	-	1	-	5	-
お姉ちゃん	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
姉ちゃん		2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
名前	1	-	2	1	2	1	2	1	3	2	10	5	-	-	1	-	1	1	2	1	3	3	7	5
+さん	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-	2	1	2	1	
+ちゃん	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
あだ名	1	3	2	4	2	1	2	4	2	1	9	13	2	1	2	2	2	2	3	2	3	2	12	11
+くん	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
+ちゃん	2	1	-	1	-	-	-	1	-	-	2	3	1	3	1	2	-	1	-	1	-	2	5	
あなた	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	4	-	3	-	2	-	2	1	2	3	2	4	11
あんた	-	2	-	2	-	3	-	3	-	2	-	12	-	2	3	3	3	5	-	4	1	2	7	16
お前	4	1	6	4	7	4	6	2	5	-	28	11	3	-	3	-	5	-	3	-	-	-	14	-
いない	13	14	14	12	13	16	15	14	13	15	68	71	14	12	13	15	13	14	16	15	12	15	68	71
合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	125	125	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	125	125

資料図 9 弟からの会話の途中での呼びかけ



資料図 10 妹からの会話の途中での呼びかけ



このように弟妹からの会話の中での呼称においても、呼称表現の使い分けには、呼ぶ側、呼ばれる側、双方の性差が若干影響を与えていることが示された。

4. 日本語の親族呼称の特徴のまとめ

本稿では、家族の会話の中での人称表現の使い分けに注目しつつ、年齢や性差によって呼称の使い分けがどう変化するか考察した。鈴木孝夫（1973：171）は、日本語の自称詞と対称詞の使い分けには、「目上」「目下」という対立概念を基本とする原則があることを示し、日本語の呼称には、次のような特徴が見られるとしている。

- (1) 日本の家族内で、目上の人が目下の人に直接話しかけるときは、家族の最年少の立場から、その相手をみた親族呼称を使って呼びかけることができる。
- (2) 目上の者が目下の者を相手として話す時、話の中で目上が言及する人物が、相手より目上の親族である場合に、話し手はこの人物を自分の立場から直接とらえないで、相手つまり目下の立場から言語的に把握する。

鈴木孝夫の模式資料図を見ると、一般的に点線より下の者は、点線より上の者に対して親族呼称を使う。一方、点線より上の者は下の者に対して「名前」で呼ぶ傾向にあり、これは会話の中での呼称も同様であるとされる。

- 筆者の今回の調査では、以下の点で、鈴木説を裏付ける結果が得られた。
 - (1) 親から子ども、祖父母から孫、兄姉から弟妹に対して（目上から目下に対し）、「名前」で呼ぶ。
 - (2) 親から子ども、祖父母から孫、兄姉から弟妹に対して（目上から目下に対し）、人称代名詞で呼ぶ。
 - (3) 家族内で、両親から子どもに対して、家族の最年少者の立場から、親族呼称を使って呼びかける。
- 筆者の今回の調査では、以下の点で、鈴木説には含まれない新たな結果が得られた。
 - (1) 目上（両親、祖父母）から目下への呼称の多様化
 - 両親から子ども、祖父母から孫に対する呼称は、「あだ名」も多く、バリエーションも豊富である。
 - 父親から女性に対して「ちゃん」付けが男性より多いが、母親は男女共にほぼ同じぐらい「ちゃん」づけで呼ぶ。
 - 祖父母から孫に対する呼称は、男女共にほぼ同じぐらい「ちゃん／くん」づけで呼ぶのがみられた。
 - (2) 兄弟姉妹間の親族呼称の使用の減少
 - 兄姉は呼びかけのとき弟妹から非親族呼称で呼ばれることが多い。
 - 兄姉は会話の中で弟妹から人称代名詞で呼ばれることが多い。
 - (3) 呼ぶ側と呼ばれる側の性差を原因とする呼称の変化
 - 親族間の呼称は、呼ぶ側と呼ばれる側、双方の性差という要因が働いていることが明らかになった。

(4) 年齢による人称代名詞の減少

- 呼ばれる側の年齢が上がると共に両親・祖父母の人称代名詞の使用が減少する可能性が示唆される。
- 呼ばれる側の年齢が上がると共に両親・祖父母・兄弟の「ちゃん／くん」付けの使用が減少する可能性が示唆される。

今回の調査において得られた鈴木説と異なる調査結果の背景は、(1)「個人主義的傾向の進行」、(2)「携帯電話やインターネットといったコミュニケーション手段の発達」、(3)「都市化の進展や生活様式、価値観の多様化」、(4)「核家族化の進行による三世帯同居世帯の減少」、(5)「家族間のコミュニケーションの減少」などがあると考えられる。これらの社会的な変化と呼称表現の変化については、今後の研究課題としたい。

参考文献

- 井上史雄 (1999) 「21世紀の社会と日本語」『月刊言語』大修館書店、pp.20-28. vol.30
- 岡本真一郎 (2000) 『ことばの社会心理学』ナカニシヤ出版 pp.48-60
- 荻野綱男 (1998) 「大都市居住者の対人関係と敬語行動」『日本語学』17 (11)、pp.160-167
- 国広哲弥 (1990) 「呼称の諸問題」『日本語学』9-9、pp.4-7、明治書院
- 柴田武 (1987) 『社会言語学の課題』三省堂
- 鈴木孝夫 (1970) 「親族呼称による英語の自己表現と呼称」『慶応義塾大学言語文化研究所紀要』1、pp.147-175
- 鈴木孝夫 (1973) 『ことばと文化』岩波新書-171
- 鈴木孝夫 (1975) 『ことばと社会』中公叢書、pp.46-49
- 鈴木孝夫 (1978) 「自己と他者」『ことばの人間学』pp.28-66、新湖社
- 鈴木孝夫 (1979) 「日本人の言語意識と行動様式—人間関係の把握の様式を中心として」『日本の言語学 5—意味・語彙』pp.428-445、大修館書店
- 鈴木孝夫 (1982) 「日本語の自称詞と対称詞」『現代のエスプリ—日本人の間柄』178 (5)、pp.121-126
- 鈴木孝夫 (1989) 「自称詞と対称詞の比較」国広哲彌 (編) 『日英語比較講座 5—文化と社会』pp.19-59、大修館書店
- 鈴木孝夫 (1998) 「トルコ語の親族用語に関する2, 3の覚え書き」『言語文化学ノート』、大修館書店
- 関戸啓子 (2001) 「川崎医療福祉学会誌」vol.1、No.1、pp.49-55
- 田中春美・田中幸子 (1998) 『社会言語学への招待—社会・文化・コミュニケーション』ミネルヴァ書房、pp.10-12
- 谷泰 (1978) 「対人関係語分析に関する覚え書き」『社会文化人類学』、pp.105-121、中央公論社

村田恵子 (1986) 「家族における人間関係に関する一考察」『情緒障害教育研究紀要』5、pp.10-12
Brown, R. and S. Levinson (1987) *Politeness: Some Universals in Language Usage*.
Cambridge University Press. pp.375-385

(アザム セペフリバディ 言語社会研究科博士課程)